

8 学校アクションプラン

令和2年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-					
重点項目	学習活動				
重点課題	基礎学力の定着と授業改善の推進				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの結果等から、必要な基礎学力が不足している生徒もみられる。身につけるべき資質・能力を明確にし、必要な基礎学力を定着させることが課題となっている。 家庭学習が不足している生徒が多くみられる。授業の内容を理解・定着させ、目指す資格・検定の取得を実現させるために、学習意欲をもって日常的に家庭学習に取り組む習慣を育成することが必要である。 次期学習指導要領では、生徒達の能動性を重視する主体的・対話的で深い学びの視点から、従来の一斉指導的な授業を改善し、思考力・判断力・表現力を育成する授業への改善を求められている。そのため、各教科・科目の担当者は授業において、生徒の実態を踏まえながら能動的な活動となるように指導方法を工夫し、改善を進めていく必要がある。 				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>基礎力診断テストの実施と分析</td> <td>公開授業の実施と授業見学・互見授業</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 基礎学力(基礎力診断テストで判定)が向上した生徒の割合を60%以上にする。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 担当授業を年1回以上(1,2学期間)公開する。 他の教員の授業見学を年1回以上行う。 </td> </tr> </table>	基礎力診断テストの実施と分析	公開授業の実施と授業見学・互見授業	<ul style="list-style-type: none"> 1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 基礎学力(基礎力診断テストで判定)が向上した生徒の割合を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当授業を年1回以上(1,2学期間)公開する。 他の教員の授業見学を年1回以上行う。
基礎力診断テストの実施と分析	公開授業の実施と授業見学・互見授業				
<ul style="list-style-type: none"> 1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 基礎学力(基礎力診断テストで判定)が向上した生徒の割合を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当授業を年1回以上(1,2学期間)公開する。 他の教員の授業見学を年1回以上行う。 				
方 策	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。 基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付けさせる。 朝学習(今年度より3教科)を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 各自で担当する授業を公開する日時を掲示板で案内する。 公開授業を見学し、気づいたことや感想などを授業担当者に渡す。 互見授業により、自身の授業を改善する。 実施率向上のために各学期に実施月間を設け意識向上を図る。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。 基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付けさせる。 朝学習(今年度より3教科)を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自で担当する授業を公開する日時を掲示板で案内する。 公開授業を見学し、気づいたことや感想などを授業担当者に渡す。 互見授業により、自身の授業を改善する。 実施率向上のために各学期に実施月間を設け意識向上を図る。 		
<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの結果を踏まえ、情報交換し関係教科で連携し対策を講じる。 基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付けさせる。 朝学習(今年度より3教科)を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自で担当する授業を公開する日時を掲示板で案内する。 公開授業を見学し、気づいたことや感想などを授業担当者に渡す。 互見授業により、自身の授業を改善する。 実施率向上のために各学期に実施月間を設け意識向上を図る。 				
達 成 度	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力診断テストを1年生の2,3学期、2年生の全学期、3年生の1学期に実施し、その結果を情報交換し職員間の共有をはかった。 2学期の結果 基礎力診断テストの判定で、2年生では、1学期より基礎学力が向上した生徒は、国数英で52.8%であった。特に数学は58.9%の生徒が基礎学力を向上させた。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間を設けたことで、すべての教員が授業公開した。 授業見学 教諭54名で延べ85回実施。(1名あたり1.57、昨年度 1.72回) </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力診断テストを1年生の2,3学期、2年生の全学期、3年生の1学期に実施し、その結果を情報交換し職員間の共有をはかった。 2学期の結果 基礎力診断テストの判定で、2年生では、1学期より基礎学力が向上した生徒は、国数英で52.8%であった。特に数学は58.9%の生徒が基礎学力を向上させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間を設けたことで、すべての教員が授業公開した。 授業見学 教諭54名で延べ85回実施。(1名あたり1.57、昨年度 1.72回) 		
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力診断テストを1年生の2,3学期、2年生の全学期、3年生の1学期に実施し、その結果を情報交換し職員間の共有をはかった。 2学期の結果 基礎力診断テストの判定で、2年生では、1学期より基礎学力が向上した生徒は、国数英で52.8%であった。特に数学は58.9%の生徒が基礎学力を向上させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間を設けたことで、すべての教員が授業公開した。 授業見学 教諭54名で延べ85回実施。(1名あたり1.57、昨年度 1.72回) 				
具体的な取組状況	<table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、朝学習が十分に実施できなかったが、4月・5月の臨時休校の際、家庭学習の課題を通して基礎学力の向上に取り組むことができた。それにより、2学期の基礎学力確認テストで国数英の教科全体の基礎学力向上につながったと思われる。 数学で特に基礎学力が不足していると思われる生徒に対して少人数による補習を行った。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議で今年度の目標について説明し、朝礼でも節目節目で呼びかけを行った。 今年度は、互見授業週間を設け、1週間自由に授業を見学できるようにした。 今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、授業等でのICT活用が飛躍的に広がった。互見授業を通して授業でのICTの活用方法等について、有意義な情報交換を行うことができた。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、朝学習が十分に実施できなかったが、4月・5月の臨時休校の際、家庭学習の課題を通して基礎学力の向上に取り組むことができた。それにより、2学期の基礎学力確認テストで国数英の教科全体の基礎学力向上につながったと思われる。 数学で特に基礎学力が不足していると思われる生徒に対して少人数による補習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で今年度の目標について説明し、朝礼でも節目節目で呼びかけを行った。 今年度は、互見授業週間を設け、1週間自由に授業を見学できるようにした。 今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、授業等でのICT活用が飛躍的に広がった。互見授業を通して授業でのICTの活用方法等について、有意義な情報交換を行うことができた。 		
<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、朝学習が十分に実施できなかったが、4月・5月の臨時休校の際、家庭学習の課題を通して基礎学力の向上に取り組むことができた。それにより、2学期の基礎学力確認テストで国数英の教科全体の基礎学力向上につながったと思われる。 数学で特に基礎学力が不足していると思われる生徒に対して少人数による補習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議で今年度の目標について説明し、朝礼でも節目節目で呼びかけを行った。 今年度は、互見授業週間を設け、1週間自由に授業を見学できるようにした。 今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、授業等でのICT活用が飛躍的に広がった。互見授業を通して授業でのICTの活用方法等について、有意義な情報交換を行うことができた。 				
評 価	<table border="1"> <tr> <td> <p style="text-align: center;">C</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生は、1学期に比べ成績が向上した生徒が、国数英で52.8%と目標の60%には達しなかった。 1年生の昨年度1年生との比較では、基礎力が高い(Bゾーン以上)生徒が+82%と大幅に増加し、基礎学力が不足している(Dゾーン)の生徒が-75%と大幅に減少した。 </td> <td> <p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業週間を設けることで、授業見学に対する意識が高まったと思われる。 ほとんどの教員が授業見学をすることができたが、見学される授業に偏りが生じ、結果的に見学者がいない授業もあった。 </td> </tr> </table>	<p style="text-align: center;">C</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生は、1学期に比べ成績が向上した生徒が、国数英で52.8%と目標の60%には達しなかった。 1年生の昨年度1年生との比較では、基礎力が高い(Bゾーン以上)生徒が+82%と大幅に増加し、基礎学力が不足している(Dゾーン)の生徒が-75%と大幅に減少した。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業週間を設けることで、授業見学に対する意識が高まったと思われる。 ほとんどの教員が授業見学をすることができたが、見学される授業に偏りが生じ、結果的に見学者がいない授業もあった。 		
<p style="text-align: center;">C</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生は、1学期に比べ成績が向上した生徒が、国数英で52.8%と目標の60%には達しなかった。 1年生の昨年度1年生との比較では、基礎力が高い(Bゾーン以上)生徒が+82%と大幅に増加し、基礎学力が不足している(Dゾーン)の生徒が-75%と大幅に減少した。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> 互見授業週間を設けることで、授業見学に対する意識が高まったと思われる。 ほとんどの教員が授業見学をすることができたが、見学される授業に偏りが生じ、結果的に見学者がいない授業もあった。 				
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 休校期間があったが、授業の遅れが心配である。夏休みを短くしたり、行事の取りやめなどで、授業時数を確保したということなので安心した。 大学などでは、オンライン授業が浸透しているが、やはり対面授業が大切ではないか。 				
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> これまで、成績下位層の基礎学力向上を重点的に取り組んできたが、今後はそれに加えて、成績中・上位層の生徒への学力向上に向けた取り組みを強化する。 生徒一人1台のタブレットの活用や教育クラウドを利用した家庭学習のサポート環境の整備など、教育におけるICTの活用の推進を行う。 互見授業週間の年間回数を増やしたり、その期間中の指定授業を設定するなど、授業が見学しやすくなる環境づくりを工夫する。 				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活 ～自律から自立へ～		
重点課題	基本的生活習慣の確立と危険回避能力の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSには、その普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供を受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。昨年度のネットパトロール報告件数は11件あり、常に情報収集を行い、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数は、昨年3件で幸いに大きな事故も起きていない。しかし、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からないし、加害者になることも限らない。常に、命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。 		
達成目標	ネットパトロールの報告件数	交通事故件数	
	・年間報告件数 7件 以下	・年間発生件数 3件 以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導
	<ul style="list-style-type: none"> ・報告件数 0件(1月27日現在) 		<ul style="list-style-type: none"> ・事故件数 7件(1月27日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起 (合格者説明会、オリエンテーション) ・学年集会での情報提供、注意喚起 ・個別指導 		<ul style="list-style-type: none"> ・新入生、保護者への注意喚起 (合格者説明会、オリエンテーション) ・交通安全教室の実施(1年生) 7月 ・自転車点検による安全意識の向上 8月 ・学年集会での交通事故・安全への注意喚起 ・個別指導
	評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットパトロール報告件数は、0件であった。 ・情報提供として県から連絡を受けた件数は、3件であった。 	<p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自損1件、対自転車1件、対自動車5件の合計7件となり、昨年度より発生件数が増え、目標の達成ができなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身に原因がある交通事故が発生しているが、交差点や道路横断には、十分注意してほしい。 ・SNSについては、入学時に保護者とともに注意しているようだが、話を聞くだけでなく、自ら考える時間を設けてほしい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症への対策から、外部講師による講演や全校生徒を一同に集めた集会などができず、全体に向けた生徒指導部からの注意喚起・指導ができなかった。その分、担任の先生には負担ではあったが、朝のSTで事あるごとに注意喚起をしていただいた。 ・次年度はどのような状況になるかわからないが、外部講師の講演や集会を予定通り計画し、状況を見て学年を絞るなどしながら実施していくようにする。 ・SNSの利用や交通安全については、まず新入生に対してオリエンテーションでしっかりとした情報提供や注意喚起を行う。また折を見て学年ごとの集会を行ったり、個別指導など様々な対策を行っていく。 		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおし、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学や選考会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の就職選考試験は10月16日より開始され、今年度は約128名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成28年度9人(116/125)、29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)、令和元年度3人(132/135)であった。
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.8回以上)	新型コロナウイルス影響による求人縮小の影響を考え 8人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室の延べ利用回数 <就職者> 進路指導室 219回 1F選択教室 118回 <進学者> 進路指導室 258回 合計 595回 達成度59.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・一次選考での結果 受験者 113名 内定者 113名 不合格 0名 内定率100.0%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 ・平日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識テスト、クレペリン検査の実施。 ・外部講師および職員による面接指導。 ・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適正の把握および学年との情報の共有化。 ・企業への求人依頼。
評 価	<p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を下回った。 就職者の53.2% 進学者の46.8% の生徒が進路の選択にあたり、進路指導室の担当者と相談をしたり、情報の提供を受けたと回答し、昨年より数値は下降した。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次選考で全員が合格し、目標を達成した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、求人数の減少が心配されたが、就職希望者全員が就職内定したことはよかった。 ・大学進学者は、推薦試験がほとんどなのか。 ・進路指導室からの求人情報等の提供は、ICTを活用したオンラインでの提供も検討すべきではないか。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやHPの確認で済ませたのか、進路指導室で資料の確認をしていない生徒が、就職者で66人、進学者で65人が進路指導室の利用をしていない。 ・就職では、企業のパンフレット等を調べた生徒の数が少ない(59件)ので、より多くの情報をとらえるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に努める。(学期ごとの基礎力診断テスト) ・各種テストや検査結果の情報および生徒情報・企業情報など学年との連携を強化する。 ・早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動		
重点課題	学校行事および部活動の充実		
現 状	<p>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。</p> <p>・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率(生徒会を含む)は97%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は約46名(内16名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。</p>		
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数	
	85%以上	40名以内	
方 策	<p>・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努めて活動および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。</p> <p>・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。</p> <p>・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。</p> <p>・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</p>		
達 成 度	<p>新型コロナ感染拡大防止のため、職員や生徒会執行部と実施の有無について協議し、運動会や尚美展を中止とした。</p> <p>球技大会については、全校一斉の開催とせず、学年ごと(1, 3年生のみ)とし、感染防止対策に留意しながら実施することができた。</p>	<p>部活動変更生徒数 1学期→3学期</p> <p>・26名退部(7名部活動変更) ※昨年度46名退部(16名変更)</p> <p>・2・3年生の新規入部7名</p>	
具体的な取組状況	<p>球技大会を実施するにおいて、職員や生徒会執行部とコロナ禍でも実施可能な内容を協議し、会場の混雑緩和のため、学年ごとで行うことや競技内容を2種目に絞ることとし、実施計画を作成した。</p>	<p>・新型コロナ感染拡大防止のため、全校では行わず、表彰伝達式を校長室で実施してHPにも掲載。</p> <p>・大会日程や入賞者一覧を校内で掲示。</p> <p>・職員朝礼で大会成績の報告。</p>	
評 価	<p>D</p> <p>・予定していた行事が行えなかったため、アンケート等で満足度の評価をすることができなかった。</p> <p>・学年ごとで行った球技大会については制約はあったものの、出来る範囲で計画・実施し、生徒達も喜んで活動している様子を見ることができた。</p>	<p>A</p>	<p>・全体の部活動加入率は高い。</p> <p>・今年度は26名の生徒が退部し、うち7名が新たな部活動に変更した。</p> <p>・2年・3年生では新たに入部する生徒が7名おり、文化部で兼部する生徒も増えた。</p>
学校関係者の意見	<p>・部活動をやめる生徒に対してその後のフォローをお願いしたい。</p> <p>・生徒の活躍がわかるような情報公開の方法を工夫してほしい。</p>		
次年度へ向けての課題	<p>・生徒の意見をできるだけ反映することで、各行事に生徒が主体的に参加し、充実感や成就感が体験できるよう配慮する。</p> <p>・新型コロナ感染症拡大防止の観点から、以前と同じような内容で各行事を実施することが難しいことも予想されるため、特活部の職員間の連携を密にして立案し、実施に向けて取り組んでいく。</p>	<p>・1年生の入部に関しては各部とも協力し、部活動紹介から入部式までの期間に必ず見学することや、十分な説明を受けてから入部の意思を固めるよう指導し、ミスマッチを事前に防ぐ。</p> <p>・退部者の確認とその後の学校生活の充実に図るための面接を充実させる。</p> <p>・女子運動部の活性化。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化			
重点課題	PTA役員会とPTA行事の活性化			
現 状	<ul style="list-style-type: none"> PTAの役員会では、行事等について積極的な話し合いが行われている。 PTA各行事への参加者が少ない。 副会長の人数確保が難しい。 			
達成目標	役員会の出席率	PTA行事への参加者数		
	出席率75%	昨年度より10%増		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> PTA通信や学校のホームページを利用して活動を積極的に発信する。特にPTA行事の際は案内を各家庭に送るだけでなくホームページを利用して情報を受け取ることができるようにする。 一斉メールを活用した情報の共有を推進する。 役員より行事参加のはたらきかけを積極的に行う。 副会長の役割を明確にして、必要人数を見直す。クラスから選出される役員を一律に運営委員として活動していただき、係分担の効率化を図る。 			
達成度	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 役員会出席率 16%(1回のみ) 新型コロナウイルス感染症予防のため、原則として全員を集める会合は避けるようにしたため会合は8月に1度だけおこなった。 会合に代わる形として、メールやSNSを活用された 	<ul style="list-style-type: none"> 実施できた行事の参加者数を前年度を100%として計算すると、教養講座は156%、自然探勝会にかかわる音楽鑑賞会は260%となった。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> PTA会長をはじめ役員各位の熱意によりコロナ禍に負けない活動ができた。 本年度は新型コロナウイルス感染症予防の見地から役員同士で会合することを避け、メールやSNSを活用して意見交換、意思疎通をはかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教養講座は材料を自宅に持ち帰って篆刻印を制作する形式でおこなった 音楽鑑賞は土曜日の夕刻を選んで、PTA役員が運営に協力しやすい日程にした。 PTA総会は書面決議のみで行った 進路研修会はPTA役員で進路指導の参考資料を作成し、学校ホームページにあげてPTA会員に公開した。 		
評 価	D	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で会合が思うように開催できず、役員間の連絡・共通理解を図るには困難な部分があった。しかし、SNS等の活用により補うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の活動は例年のものとことなり比較することは困難であるが、コロナ禍という現状に対応して役員各位により工夫された活動であった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、PTAの組織改革を実施し、PTA役員選出方法を変えたが、多くの方に、PTA活動に積極的に参加してほしい。 			
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、新しい選出方法で決められた役員による新しいPTA活動となる予定であった。しかし、あらゆる活動が新型コロナウイルス感染症対策のため以前のように実施できなかった。次年度においてもコロナ禍の影響は残ると考えられる。本年度の試みをもとにPTA活動が十分に行えるように検討したい。 生徒一人に1台のタブレットが配付され、ネットを活用した学校活動もすすめられていく状況を鑑み、PTA活動においてもネット活用を考慮したものになりたい。 			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)